

会 議 録

会 議 名	平成27年度第1回市史編さん委員会
事 務 局	教育委員会生涯学習課
開催日時	平成27年5月18日（月）午前10時～11時00分
開催場所	市役所第二庁舎801会議室
出席者	委員 出席（根岸委員長・小野副委員長・林委員・井上委員・牛米委員・中嶋委員）
	欠席（山本委員）
事務局	石原課長・高木主事・伊藤主事
傍聴の可否	◎可・不可・一部可
	傍聴者：なし
不可の理由	

会 議 次 第

1 報 告

1) 26年度事業について

- (1) 古文書調査委託（梶野家文書）について
- (2) 『小金井市史編纂資料第54編上小金井村光明院文書』の発行について。

2) 部会の活動について

- (1) 近代部会
- (2) 現代部会
- (3) 近世部会

3) その他

2 議 題

1) 今後の事業計画について

- (1) 27年度の事業計画について
- (2) 通史編の発行に向けて
- (4) その他の事業について

2) 次回の会議日程

平成 年 月 日（ ）

【配布資料】

- 資料1 『地方史研究 374号』 『小金井市史 資料編 近代』の新刊案内
- 資料2 『小金井市史 資料編 現代』掲載史料リスト
- 資料3 『小金井市史 資料編 近世』構成案
- 資料4 小金井市史編さん年次計画

会 議 内 容 (概要)

(委員長) 平成27年度第1回市史編さん委員会を開催する。

1 報 告

1) 平成26年度事業について

(委員長) 事務局から報告をお願いする。

(事務局) 部会活動以外の平成26年度事業について報告する。

(1) 古文書調査委託(梶野家文書)について

梶野家文書の翻刻について、継続して委託し、業務報告があった。昨年度はKN133～254まで翻刻した。

(2) 『小金井市史編纂資料第54編 上小金井村光明院文書』の発行について

市史編纂資料として、上小金井村光明院文書を200冊刊行した。2カ年にわたって、市民団体「小金井古文書の会」が翻刻し、事務局で校正、資料集にまとめた。関係機関に配布を予定している。

(委員長) 梶野家文書は、3年前から翻刻を続けている。近世後期の村の基本的文書である村入用帳(財政)・宗門人別帳(戸籍)など量が多く、翻刻が進まないが、近世後期の村の様子を知ることができる良い史料である。

光明院(梶家)は、江戸時代に修験道、明治時代に神職に復職した家で、近代の神仏分離に関する文書がある。祝詞の中には近代の様々な問題が見られ、他市では見られない特色のある文書群である。

(事務局) 光明院文書の一部は、「資料編 近代」に掲載している。今後の市史編さんに利用していただきたい。

2) 部会の活動について

(委員長) 各部会から活動報告をお願いする。

(牛米委員) 月1回近代部会を開催し、通史編を目指して報告会を行っている。光明院文書は、「資料編 近代」でも使った。明治維新の神社分離令によって地域の氏神が変わっていく様子が分る。神仏分離のパターンは地域によって異なることが、担当調査員から報告されている。「光明院文書」は今後も使っていきたい。なお、産業関係のまとまった資料が少なく、統計資料で補えればと考えている。全国組織である地方史研究協議会の機関紙『地方史研究』の4月号に、「資料編 近代」の刊行が紹介されたので報告する(資料1)。

(委員長) 小金井市史の編さん事業が、全国的に紹介されるのは初めてであり、大変良かった。

(事務局) 産業関係の資料がないということだが、養蚕等繊維関係を含めてないということか。

(牛米委員) 明治後期に鳴下製糸場ができるが、工場ができるまでの課程がよく分からない。具体的な農産物に関する資料もない。統計資料で補うことにしているが、新たな資料が見つければ、通史編で使えるので、資料の出現に期待している。

(委員長) 次に現代部会の報告をお願いします。

(中嶋委員) 第一・二章担当の調査員が4月に就職のため退任した。新たな調査員は、通史編を目指して補充したいと考えている。今年度中に資料編を刊行するため、急いで編集作業を行っている。

掲載候補のリスト(資料2)を説明する。第一・二章(1937～1957年)については、およそ目処がついているが、今後、章や節の名が変わるかもしれない。現在再構成中である。第三章(1958～1971年)は、担当者がよくまとめられ、だいたい終わっている。第四章(1971～1979年)は、資料が多すぎるので他の章との兼ね合いを見ながら減らして行きたい。第五章(1979～2000年)は、節の構成はできているが、資料がまだ入っていない。6～7月中にまとまったものを出したい。資料の選択と同時に事務局に翻刻を依頼しており、作業は進行している。

【質疑】

(井上委員) 新生活運動関係資料はどこに入るのか。

(事務局) 第三章第2節に、新生活運動関係資料が入っている。

(井上委員) 小金井では青年学級が盛んだったと聞いているが、資料はあるか。

(中嶋委員) 青年学級は、公民館活動として行われているので、公民館資料に出てくる。初期は地域の青年団活動だったのが、1970年代に公民館の青年学級に変わっていくものと考えている。

(委員長) これだけ資料を集めると削る作業が大変だと思うが、よろしくお願ひしたい。現代編は資料が多いが、重要な資料が見当たらないという面もある。対象とする時代は、戦時体制から戦後、1960年代、70年代と歴史が大きく転換していく時期なので、その変化が資料にダイナミックに出てこなければならぬと思う。

(井上委員) 戦後直後の男女共学についての資料はあるか。

(事務局) 戦後直後に、町立の高等女学校が計画されたが、すぐに新しい学校制度に変わったため、小金井町に高等女学校はできなかった。

(中嶋委員) 戦後(1948年)、都立小金井機械工業専門学校が都立小金井新制高等になる、男子校で共学ではないと思う。

(井上委員) 地方に調査に行ったら、男子高と離れた女子高とが合併し、名目上、男女共学とした例があったので、小金井ではどうかということで質問した。

(中嶋委員) 小金井では、都立小金井(工業)高校だけなので、当時、男女共学かどうか改めて調べたい。第一章の特徴的な資料としては、空襲の記録がある。新聞記事・皆木日記・学校日誌などに見られる。第二章では、農地解放関係の資料があり、プライバシーを考慮して掲載したい。

(委員長) 第五章について何か意見はあるか。

(林委員) 膨大な資料をまとめるのは大変だったと思う。今後、取捨選択の作業があると思うが、内容については、精査したい。

(委員長) 今後、全体が見えてくると、感じ方も変わってくるかもしれないが、よろしくお願ひしたい。

(委員長) 近世部会は、「資料編 近世」構成案(資料3)に沿って月1回文化財センターで資料を確認しながらリストを作成している。資料が多くて取捨選択に困る部分と、全く資料が無い部分がある。小項目のとおりにならない状況である。例えば、7の産業の発展の中に挙げた薪炭については、国分寺市では炭焼きに関する資料、武蔵村山市では狭山丘陵の雑木を薪として江戸へ運ぶ流通の資料があるが、小金井市には薪炭関係の資料が全く見あたらない。今は市内の資料だけを見ているが、周辺の資料も見ながら、足りない部分を補う作業をしたい。

光明院文書の中に、今までに無かった資料として「カマジメ帳」がある。これは、極月(12月)に光明院が檀家に新年の御札を配った記録である。光明院が村で一定の役割を果たしていたことが分る。明治4年の資料だが、幕末期の村の状況を示す資料と見ることもできる。「資料編 近代」には所収しなかったため、家の信仰や生活の姿を示す近世的資料として載せたい。

3) その他の報告

(事務局) 4月27日に貫井南町の大澤家から天然理心流関係資料の寄贈を受けたので、報告する。いきさつは、JA 武蔵小金井支店の担当者から市民協力員の畑野さんに連絡があり、資料の存在が明らかになった。大澤家は、天然理心流の近藤勇五郎家と姻戚関係があった。伝承の経緯は、市民調査員によって調査を進めることにしている。

【寄贈資料】

- (1) 林 子平著『海国兵談』第13～15巻(写本) 1冊
- (2) 弘化五戊申仲春授受『天然理心流剣術免許諺解』(写本) 1冊
- (3) 昭和32年4月25日「近藤 勇先生九十年祭記念」写真(大) 1枚
- (4) 昭和32年4月25日「近藤 勇先生九十年祭記念」写真(小) 1枚
- (5) 昭和年4月28日「近藤 勇百年祭記念建之像」写真 1枚
- (6) 近藤家墓地(龍源寺)写真 1枚
- (7) 近藤 勇百年祭記念手拭い 1枚
- (8) 本木梅太郎銅像・頌徳碑除幕式関係写真(印刷物) 4枚

以上、11点である。これら、天然理心流関係資料の歴史的価値について、

ご教示願いたい。

(委員長)『天然理心流剣術免許診解』は、弘化5年に書かれたものを近代になって写したものである。『海国兵談』は、近世後期の写本と思われる。『海国兵談』は、版木が没収され、禁書となるので、写本として流布する。最初の巻に、北方の海防や江戸の海がロンドンに繋がっていることが書かれていて有名だが、後のほうは近世の一般的な兵学書と変らない、この部分が写本として流布した。天然理心流は、明治20～30年代になって近藤勇五郎が吉野泰三の協力により多摩地域に広まり、門人が増えてくる。こうした過程で、近代に写されたものかもしれない。「資料編 近世」でも重要な資料になりうる。

2 議 題

1) 今後の事業計画について

(1) 平成27年度の事業計画について

(委員長) 議題に移る。事務局から説明をお願いする。

(事務局) 年次計画(資料4)に基づき説明する。市史編さん委員会は、例年どおり3回開催する。部会活動としては、近代部会が今年度中に「資料編 現代」を刊行することになっている。近代部会は通史編執筆に向けての活動、近世部会は平成28年度刊行の「資料編 近世」を目指した部会活動を行う。古文書調査委託は、梶野家文書の筆写の続きを行う。『小金井市史編纂資料第55編』は、「下小金井村鴨下家文書」を予定している。

2) 「通史編」の発行に向けて

(委員長) 平成30年度の「通史編」発刊に向けて、事務局から説明願いたい。

(事務局) 懸案となっている考古部会の立ち上げがまだできていない。平成29年度に「資料編 考古」の刊行を予定しており、そのための事前準備として、現在、報告書や未報告資料・記録類の整理を行っているが、かなり時間がかかる。また、小金井市の遺跡は、旧石器時代・縄文時代の遺跡が多いが、弥生時代・古墳時代・奈良平安時代の遺跡が殆んどなく、中世の資料も少ないという特徴があり、通史的記述が困難な状況がある。

(委員長) 通史の記述に、原始・古代・中世は欠かせない。資料の無い時代は、周辺地域の資料で補って記述する必要がある。「資料編 考古」は後回しにしても「通史編」を先行させることを検討してはどうか。今後、事務局と協議し、方向性を見出していきたい。

他に意見がなければ、市史編さん委員会を終了する。

3) 次回の会議日程

平成27年10月19日(月) 午前10時から